

**製品名: Elk-1 (リン酸化 Ser389) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04604**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:20-1:50
分子量	48kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ELK1
別名	ELK1; ETS domain-containing protein Elk-1
遺伝子 ID	2002.0
SwissProt ID	P19419
免疫原	抗血清は、ヒト Elk1 の Ser389 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 356-405

**背景**

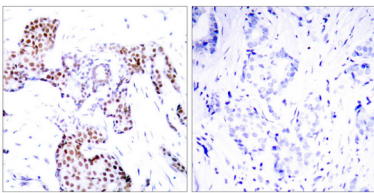
この遺伝子は、転写因子 Ets ファミリーおよび三元複合体因子 (TCF) サブファミリーのメンバーです。TCF サブファミリーのタンパ

ク質は、c-fos プロトオンコゲンのプロモーター領域にある血清応答因子および血清応答エレメントに結合して三元複合体を形成します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ras-raf-MAPK シグナル伝達カスケードの核標的ですが、この遺伝子は、選択的翻訳開始コドンおよび選択的スプライシングによって複数のアイソフォームを生成します。関連する擬似遺伝子は、7 番染色体および 14 番染色体上に同定されています。[RefSeq 提供、2012 年 3 月]、機能: 転写を促進する。プリンを多く含む DNA 配列に結合する。血清応答因子、および fos 血清応答エレメントの ETS モチーフおよび SRF モチーフと三元複合体を形成できる。、PTM: マイトジェン刺激を受けると、MAPK1 によって C 末端のセリンおよびスレオニン残基がリン酸化される。Ser-383 および Ser-389 は MAPK1 にとって優先的な部位である。in vitro において、MAPK1 によるリン酸化は、血清応答因子である SRE および SRF との三元複合体形成を促進する。リン酸化は SUMO 化の消失を導き、転写活性化因子の活性を回復させる。、PTM: SUMO 化は、標的遺伝子プロモーターへの HDAC2 のリクルートメントにつながり、ヒストンのアセチル化と転写活性化因子の活性を低下させることで、転写活性化因子の活性を抑制する。また、核保持も制御します。、類似性:ETS ファミリーに属します。、類似性:1 つの ETS DNA 結合ドメインを含みます。、サブユニット:SUMO 化された形で PIAS2/PIASX と相互作用し、転写活性化因子活性を高めます。、組織特異性:肺と精巣。、

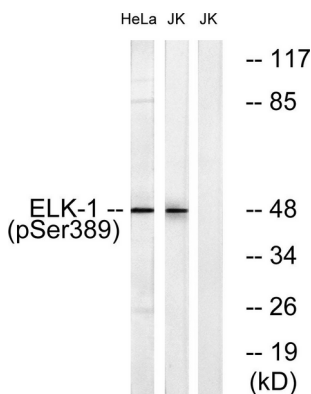
## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;ErbB\_HER;接着斑;インスリン受容体;GnRH;プリオン病;子宮内膜がん;

## 画像データ



Elk1 (リン酸化 Ser389) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



UV 15 '処理した Jurkat 細胞およびパクリタキセル 1μM で 24 時間処理した HeLa 細胞のライセートを、Elk1 (リン酸化 Ser389) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。